

令和7年度 学校関係者評価

学校番号	19	学校名	静岡県立天竜特別支援学校	記載者	和久田 欣慈
------	----	-----	--------------	-----	--------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
守 る	実質的な危機管理体制を構築し、様々な緊急時への対応力向上	・緊急時（非常災害訓練等）に自分で考え判断し、命を守る行動することができたと答える児童生徒 80% 教職員 100%	A	A	・マンネリ化することなく、引き続き、その時々児童生徒にあった適切な訓練、意識づけを行う事が大切。 ・森林火災の取り組みも評価できる。
		・児童生徒の安全・安心を守っていると答える教職員 100%	A	A	・教員、生徒とのコミュニケーション向上を継続下さい。細かな変化への気づき、早期発見が大切。
	多様性を認め、自他を尊重し高い人権意識を持った児童生徒と教員	・児童生徒間でお互いを理解したり良いところを認めたりする言動が増えたと答える教職員 80% ・児童生徒の模範となり常に人権を守る言動を心がけている教員 100%	A	A	・訪問教育の子供たちの様子が学校でも常にわかる掲示の取り組みや、つながる工夫がされている。天特に通う子供たちにとって、多様性、自他尊重の意識の醸成に役立っていると思う。
育 む	児童生徒が安心して学べる学校風土の醸成	・児童生徒それぞれの良さや持ち味を生かした学びがあり、誰もが活躍できる機会があると答える児童生徒及び教職員 80%	A	A	・少人数教育によるゆったりとした雰囲気は天特に通学する子供たちにとって最適な学習、生活環境である。その良さを今後も存分に活かしてほしい。 ・自己肯定感向上の取り組みはとても重要。今後も認め合える学校風土の醸成に努めていただきたい。
	O J T による学校力の向上を高める	・キャリアステージごとに求められる資質能力が向上したと答える教職員 80%	A	A	・外部研修を含め、継続した対応を願う。スキルアップを期待している。
	I C T 機器等を効果的に活用した授業実践を展開	・I C T 機器やデジタル教材を効果的に活用し、児童生徒の味関心や理解が深まったと評価する教員 80% ・病院や原籍校及び家庭と連携が深まったと答える教職員 80%	A	A	・I C T 設備が充実しているとじる。今後とも導入の促進を図り、効果的な授業実践を望む。 ・どの子も学習に参加できる環の向上を引き続き願う。K u b i の活用など良い取り組みであった。
	病弱教育の	・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の授業を実践	B	B	・様々な個性を持った生徒に対する教育の難しさの中で、得

	専門性の向上を図り、その専門性に基づく効果的な実践	<ul style="list-style-type: none"> ・することができた教職員 100% ・自立活動の視点に立った支援を授業にとり入れた教職員 80% 			<ul style="list-style-type: none"> ・意分野を伸ばしていくことを継続されるとよいと思う。 ・天特が従来大切にしてきた「個別最適な学び」の前提となる自立活動の再意識化につながったことは成果として捉えることができる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・整理図をもとに適切な目標と指導内容を設定し、児童生徒の成長を促す実践ができた教職員 100% 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒個々の特性を活かした支援を願う。日々のコミュニケーションによる、気づきの積み重ねが重要。
つなげる	みゅうの丘や地域・他機関との連携により、協同学習を充実	<ul style="list-style-type: none"> ・みゅうの丘や地域・外部機関の人材を活用した授業や地域や交流校と共に取り組む活動を実践できたと答える教職員 100% ・学校の教育活動を知ることができたと答える保護者・外部機関等関係者の評価 80% 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校は待ちの姿勢では地域の人、施設、団体には見向いてもらえない。常に積極的に発信することが大切。 ・様々な活動の場において、学校、医療、福祉が一体となり取り組んでいることに評価できる。
	個別の教育支援計画に連携体制を確立	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画を基に、原籍校や他機関、保護者に支援や助言をし連携できた教職員 100% ・児童生徒がなりたい自分をイメージし、主体的に進路を決定したり、身近な将来の目標を考えたりする授業実践ができた教職員 100% 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者、原籍校、病院等と情報を密にし、連携することによる精度向上を意識した対応を願う。生徒が変化を実感できるとよい。
チーム	「チーム天特」による全員参加の業務改善	<ul style="list-style-type: none"> ・予算立案・執行や施設管理等事務室と密なやり取りし、協働連携ができたと答える教職員 100% ・担当業務や行事の見直しを行い、業務改善できた教職員 80% 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・公務のDX化が更に推進され、情報の共有化等業務改善につなげ、職員の働きやすい環境が整備されると良い。 ・教育の質の維持、向上を考慮した上で、無駄の削減に努め、教職員の負担を軽減してほしい
		<ul style="list-style-type: none"> ・効率的な会議の運営や効率的な会議への参加ができたと答える教職員 100% 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の支援、指導については話し合いは、効率的にはいかない場面もある。時にはメリハリをつけて、とことん議論することも必要な時がある。 ・資料の事前配布、確認により会議時間の短縮に努める。電子データを基本として共通保存場所への保管等、配布の手間の削減も要検討。

